

# 新十津川中だより

新十津川中学校  
学校通信  
発行  
平成 23 年 2 月 28 日

## 天使のささやきを聴いたことがありますか



新十津川中学校長 高瀬裕二

今日もしんしんと雪が降っています。気温も下がってきています。昨日のテレビで日本の最低気温がマイナス4.1℃、明治時代に旭川市と報じていました。実は気象台での観測ではありませんが、気象庁公認でマイナス4.1.2℃という記録があるのです。2月17日、ずっと北の町、モシリという小さな集落での35年前の記録です。漢字では「母と子の里」と書きます。

「母子里」って、とっても素敵な名前ですね。アイヌ語で世界・国という意味です。でもそのモシリに、あまりにも寒さが続くものだから、テレビ局がやってきて、「焼酎も凍る！毎日が冷凍庫の世界、とてもひどいところだ」「飛んでいるズメも寒さで落ちる」「嫁も来ない」と面白おかしく報じていました。

ほんとうに「モシリ」はそんなひどいところなのでしょうか？素敵なところがないのでしょうか？

中学を卒業し10年が経ち「モシリ」生まれの若者達が戻ってきました。そして、「マイナス4.1.2℃の世界の素晴らしい」を全国の皆さんに伝えたいと集いを計画しました。



マイナス4.1.2℃の世界では、ダイヤモンドダストが天使の羽のようにキラキラキラと空中に舞う一瞬、静寂の中に何かが聞こえてくる。まるで「天使の囁き（ささやき）」のようだ。

札幌の雪祭りと併せて、毎年2月11日に、この記録を観測した母子里にての「天使の囁きを聞く集い」は、今や全国的なものとなり、毎年多くの若者が「天使の囁き」を聞こうと日本中からやって来ます。ボランティアやNPOも参加するようになりました。もう25年は続いています。

「ぜひ今回は、校長先生も来てください！」

「体験したマイナス4.1.2℃の世界」「当時のモシリ地域の状況」「当時の時代背景を話して下さい」と講演のお誘いを受けました。母子里は新任の地で、もう35年も前のことなので大変恥ずかしい・・でも、45歳近くになったかっての子どもたちの願い、とても断れませんでした。

何時間も車を走らせ集合時間の午後5時、私が行くと既に宿舎のレイクハウスには全国から40名近くの方々がやって来していました。ボランティアで春よりここワールドセンターを手伝っている奈良の女性。仕事を終え今年も最終便で飛んできましたと、神奈川の女性。もう25年連続ですと、釧路よりの男性、初めは沖縄からの参加だったそうです。秋に初めてきましたと、このイベントを知りましたと綾小路きみまろのような、埼玉の農家のおじさん。ネットのブログを見てなんとなく思い切ってきましたと、事情を話さない東京の女性。でも、すぐ常連・新米ともにほんとうに仲良くなってしまいました。

夜にみんなで母子里のマイナス4.1.2度の記念モニュメントの前でダイヤモンドダストが表れるのを待ちました。アイスキャンドルも灯されました。気温はどんどん下がっていきます。氷で作ったグラスにジュースを入れて楽しんでいると、ライトアップされた白樺林に期待通りキラキラと舞うダイヤモンドダストが現れてきました。

「じいっと」、「目を閉じて」、「耳を澄まして」、「こころで聴く」・・・

みんな、静かに、祈るように「天使の囁き（ささやき）」を聞いています。

静寂の中に、いまの、自分自身をみつめている自分がいることに気づきました。

「天使の囁き」とは、「忘れていた、本当の自分への気づき」ですよと、天使は優しく、ささやいてくれました。

※WEBにて新十津川中学校の様子を発信しております。

WEB 校長室 青雲の志 [【http://www1.odn.ne.jp/~ao32720/index.shtml】](http://www1.odn.ne.jp/~ao32720/index.shtml)